

山また山なる越後駒ヶ岳 2003m、平ヶ岳 2141m

斉藤 整紀

- 2017年7月21日(金)～23日(日)
- メンバー 村山隆(C.L)・斉藤整紀
- 日程 21日 葛西(車)13:30⇒17:00 銀山
平温泉・湖山荘(泊)
- 22日 湖山荘(車)4:00⇒枝折峠4:30→前駒:
駒ノ小屋10:00→駒ヶ岳10:30→駒ノ小屋
11:30→15:30 枝折峠⇒16:20 湖山荘(泊)
- 23日 湖山荘(送迎バス)4:00⇒中ノ岐登山口5:
20→玉子石分岐8:20→平ヶ岳9:40→玉子岩
→11:40 中ノ岐登山口(送迎バス)⇒14:00
湖山荘・(入浴)(車)15:20⇒20:20 葛西

7月22日(土) 越後駒ヶ岳 晴れ/曇り

湖山荘(車)4:00⇒枝折峠4:30→道行山6:10
→小倉山7:00→百草ノ池8:10→前駒:駒ノ小屋9:
30～10:00→駒ヶ岳10:10～30→駒ノ小屋11:
30→百草ノ池12:30→小倉山13:25→道行山14:
15→15:30 枝折峠(車)⇒16:20 湖山荘(泊)

枝折峠は小雨交じりの天気、不安な気持ちでスタート。本日の長丁場に備えて、食料も、水も2ℓと大目。緑豊かな小山の連なる遥か向こうに前駒が聳える。雪渓が豊かで、雨上りの朝日に眩しい。まず40分程上って明神峠に取付いたが、以後、1000～1400m程度の小ピークが延々と連なる道行山や小倉山などを越える。距離はたっぷりあるが、高度はあまり稼げていない。左隣の荒沢岳は均整がとれて颯爽としている。また駒ヶ岳の南方に連なる中ノ岳は、駒ヶ岳よりも更に高く、少し雲を頂いている。

雨後の蒸し暑さと無風の樹林帯は体力の消耗が激しい。友人はやや不調か、ペースが上がらない。それでも地図のタイム通りに推移し、前駒への取付に至って、ようやく山が変わって、本格的な岩山になった。ガラ場や岩壁をやり過ごして、前駒にぐんと近づいた所で、山頂へ通じる雪渓と

駒ノ小屋が飛び込んで来た。勢いそのままに、一気に稜線に上がって、小屋前のベンチで寛ぐ登山客を尻目に、山頂へ向かう。



真っ直ぐに雪渓に進む。雲が流れ、青空が見え隠れし、雪渓上部に光と影が交錯する。それにしても、わずか2000mの山頂に、この時期、これだけの見事な雪渓が残るとは！右側に山頂標識が見え、雪渓を渡り切った先に小径は見えているが、ここは雪渓を横断し、藪漕ぎで山頂に行くことにした。

雪渓の途中で、頂上から帰る人に注意された。「雪渓を戻って、この径に來い」、と言っているようだ。私は、「ありがとう」と答えて、ヤブに取付いた。山頂は広々として、360度のパノラマが楽しめるはずが、生憎、雲が出て、尾瀬方面など遠方は見渡せない。近くの八海山は、水無川を挟んで間近に聳え、迫力がある。また中ノ岳も縦走したくなる近さである。



帰りは、ヤブを通過して、雪渓に戻り、雪に触って遊んだ後は、小屋に下りて、しばらく寛いだ。事前に小屋の水は出ないと聞いていたが、友人は「冷たい水が飲みたい」と小屋番に聞いたところ、

下の雪渓で取水できる箇所を教えてもらった。10分足らずの下降で、小屋番の指定箇所に取付き、汲んで、飲んでみた。何か黄色い色が付いていて、冷たいが、飲むといがらっぽい。それでも私は1本、友人は2本だけ持ち帰った。

小屋から下山のころには、すっかり雲が広がり、展望が遮られ、ひたすら来た道を辿るしかない。駒ヶ岳本体の下りは、岩稜に気を付けたが、以降は、危険箇所はないため、のんびりと下った。

枝折峠に着いたのは15時半で11時間が経ったことになる。厳しくも味のある山である。

湖山荘では夕食後、翌日の平ヶ岳の打ち合わせが行われた。予報が悪く、降水時には車が通過できなくなる箇所があるため、新しい客は断ったとのこと。また平ヶ岳山中での注意事項が伝えられた。

7月23日(日) 平ヶ岳 雨/曇り

湖山荘(送迎バス)4:00⇒中ノ岐登山口5:20→玉子石分岐8:20→平ヶ岳9:40→玉子石→11:40中ノ岐登山口(送迎バス)12:40⇒14:00湖山荘

平ヶ岳山行の中で、宿の送迎車を利用した最も安直な中ノ岐コース。湿気を含んだ空模様、送迎のマイクロバスは4時に宿を出た。湖山荘の5名の他、2名が加わり、7名がバスに乗った。

標高1270mの中ノ岐登山口に着いた時は、すっかり夜は明けているが、空はどんよりとして、いつ雨が落ちてもおかしくない状態である。我々の他、もう1台のツアー客15名程が登る。宿の運転手に、「できるだけ12時までには下山して欲しい。そのためには10時には下山態勢に入るように」と念を押されて出発した。

平ヶ岳沢を渡渉して、すぐ上りが始まる。樹林帯の中、木の根で滑り易い急登をひたすら登る。間もなく雨が落ちてきた。10時から降雨予報が早まった様だ。皆が雨具を着ける。私は上着だけだが、ほとんどが上下である。岡山からの夫婦は、登山靴にレジ袋を被せて履いている。なるほど!

3時間で玉子石分岐に至り、木道が始まる。山頂台地は、風が強く、長袖を雨具の下にはおった。

背丈の低い灌木に交じって石楠花も多い。姫ノ池方向からの下りの雪渓で木道が切れ、ガス出て、方向が分らなくなった。前方に聳えていた燧岳も隠れた。一旦、姫ノ池方面に戻りかけた時に、ガスが晴れ、これから進む径、帰る径が分かった。平ヶ岳山頂に向かって上り返すと、木々の背丈が高くなり、石楠花もまだまだ見頃である。

程なく、木道の右に山頂標識があり、記念写真を撮った。悪天候で展望はない。小雨に煙る池塘周辺の花々も色を失っている。チングルマは羽に雨が滴り、ワタスゲはふっくら感がなく重そう!

ショートカットルートでは先程の雪渓を下から登らなくてはならない。私はストックがあり、キックステップで難なく登ったが、友人はチェーン式アイゼンで登った。時間に余裕があり、玉子石に寄ってから下山に着いた。



粘土質の滑り易い箇所に気を付けながら、足を下ろす。下山が始まって、間もなく、雨も上がり、帰りの道路の心配もなさそうである。あとは車に戻るのが遅れないことと、出来ればピリは避けたいとの思いで下る。果たして、12時目標を軽くクリアし、岡山の夫婦に次いで2番目であった。あと2組の到着を、靴の汚れを落としたり、昼食を摂ったりして待った。

このコースは、最短6時間で往復できるが、鷹ノ巣コースだと、昨日の越後駒に負けにくいくらい厳しい長丁場の山行になる。

銀山平の日帰り入浴で汗を流してから帰宅した。道路は天気のせいか、車は少なく、順調であった。銀山平温泉宿からの2座を企画して、マイカーを提供してくれた友人に感謝したい。〈了〉